

2022年3月28日発行
日本比較文化学会関東支部

2021年度第3号のレター発行となります。本号では、2022年3月20日(日)に東京未来大学(遠隔会議室)にて開催されました「第55回関東支部例会」での支部会員の発表要旨並びに「2021年度関東支部総会」の決定事項について掲載致します。

日本比較文化学会関東支部事務局長 郭 潔蓉

◆第55回 関東支部例会 ご報告◆

2022年3月20日(日)、東京未来大学・遠隔会議室(zoom)において第55回関東支部例会が開催されました。当日は6名の支部会員による研究発表が行われました。各発表において積極的な意見交換がなされ、大変有意義な合同例会となりました。以下、例会での会員の研究発表の要旨を掲載致します。

◆開会の挨拶: 関東支部 支部長 近藤俊明 (東京未来大学)

◆研究発表:

1. ボリス・パホルとナチス収容所体験

茂石 チュック・ミリアム
スロヴェニア大使館 職員

ボリス・パホルは1913年にトリエステに生まれた作家です。同時に、イタリアの少数派スロヴェニア人のため、さらには著作などの活動の重要性を訴えている。第一次世界大戦後、パホル氏が住んだトリエステ地方がイタリア国となり、ファシズムと共にナショナリズムが強くなり、少数派のスロヴェニア人の日常が消されてゆく中でファシストは民族としての権利が認められず、スロヴェニア語とスロヴェニア文化が非常に抑圧されている。その上、パホル氏が第二次世界大戦の時、一年超でナチス強制収容所を経験する。その実体験を全ての作品で繰り返し語るなかで、「ネクロポリス」という長篇小説は特にナチス強制収容所の体験が描写されています。過去にユダヤ人が体験したホロコーストは十分知られているが、同時にイタリアのファシズム(ドイツのナチズムもそうだが)によってスラヴ民族も同じ経験をしていた。パホル氏がこのような経験を若い世代に正しく伝えるべく、75年前の事実に向き合うもどのように伝えるべきか、それともそれをそのまま言わずにいるべきかが非常に重要な論点だと思っている。歴史から人間はどの世代でスロヴェニアを繰り返してしまうという事実もあり、過去のことから学べば、またこのような残酷非道な事スロヴェニアはいけないと警鐘を鳴らしている。

2. 日中におけるベルクソン思想受容の比較に関する試論

郭 珺

上海大学東京校 専任講師 / 法政大学 客員学術研究員

18世紀イギリスに起こった産業革命は、農業文明社会から工業文明社会への移行を意味するから、普通これを「工業化」とよんでいる。1世紀のイギリスでは、世界に先駆けて工業化と都市化が実現する一方で、貧困、犯罪、人間疎外などの問題が生まれた。それは、工業の発達につれ、人間という労働力が商品として資本に従属され、一人ひとりの人間から独立した一つの機械としてみなされている。こうした機械論は、自然現象に代表される現象一般を、決定論的な因果関係のみ解釈が可能であり、自然界や人間界における全体の動きへの予測も可能とする立場である。それに反対にして、人間の知性よりも、それをより下部で規定する生の力のようなものを重視する「生命哲学」が誕生した。

ベルクソンは、哲学史において「生命哲学」と呼ばれる一群の思想を代表する哲学者の一人である。ベルクソンは、『創造と進化』において、自らの生命哲学は「生命の進化の過程における知性以外のものを人間に取り戻す営み」、言い換えれば、「人間による本能の再獲得」であるという。『時間と自由』における心理学の研究において人間の意識の根底にある「持続」を発見することでその独自の哲学を出発させた。その後の彼の思索の進展の中で、意識の中に発見された流れる時間としての持続は、意識を超える生命の流れへと拡大し、さらに、最終的には、衝突に明け暮れる私たちの「閉じた社会」を「開いた社会」へと変容させ得るものにまで発展していった。

19世紀中後期において、ヨーロッパは植民主義を推進するとともに、社会ダーウィニズムが流行っていた。日本も中国も民族の存亡を直面し、必死に西洋に学ぼうとする運動を起こした。しかし、第一次世界大戦が爆発した後、西洋社会の固有的な危機が暴露された。当時、人々は科学の価値と生命の意味を反省し、知識人を通して生命哲学は日本と中国にも流入してきた。その生命哲学への受容にあたり、一群の知識人は生命哲学を通して自国の思想潜在する内在的価値を改めて発掘した。

本稿ではベルクソンの生命哲学はいかにして東洋諸国に受容されるのかに着目し、とくに日中のベルクソン思想に関する受容を比較する。そこで、五・四運動期における梁漱溟の「仁」の思想と京都学派代表論者の一人の九鬼周造の「邂逅の哲学」と比較することで、両者の相違と同時代受容を検証する。

3. 米国政府による北朝鮮向けラジオ放送の現状分析

田中 則広

淑徳大学 准教授

本研究発表では、米国の政府系メディアが実施する北朝鮮向けラジオ国際放送のコリアン・サービス（韓国語放送、朝鮮語放送）を対象に、運営の実態と内包する課題について考察した。実例として取り上げたのは、国営放送局のボイス・オブ・アメリカ（以下、VOA）と、非営利民間組織が国家予算を用いて運営するラジオ・フリー・アジア（以下、RFA）の2つの放送機関である。

これまでVOAは世界と米国に関する情報の発信を、また、RFAは放送対象地域のメディアが伝えないその地域の情報発信を、それぞれの主な目的としてきたが、現在では変化が生じている。

主要番組やニュースの分析を通じて検討した結果、目的が異なるとはいえ、内容的には重複する部分が多く、むしろ双方ともに、聴取者に対して「民主主義」や「市場経済」などに関する情報の提供など、将来に向けての北朝鮮社会の変化を促すための試行錯誤をしていることが推察された。

4. カンボジア人日本語学習者の敬語使用に関する考察

- 中級以上の学習者対象の調査から -

ヘン シータイ

宇都宮大学大学院 博士課程

カンボジア人日本語学習者は2018年の時点で5419人であり（国際交流基金2020）、その多くは日系企業への就職を目指している。ところが、学習上のいちばんの難点は、企業での対人関係において必要な敬語の習得である。その原因は謙譲語が彼らの多くの母語であるクメール語にないことである。また、絶対敬語のクメール語に対し、日本語が相対敬語であることを理解することは難しく、その教授法は十分研究されていない。さらに、敬語に関する研究は多くあるが、カンボジア人日本語学習者に特化した研究はこれからの課題である。そして、敬語使用の実態調査は見当たらないので、今後、進める必要があるだろう。

本研究の対象は、敬語の既習者と日系企業の社員である。両方を比較して、敬語の誤用訂正能力を測定して、文法性判断にどのぐらい差があるか調査した。さらに、敬語の能力をはかる問題を含むアンケート調査を実施して、結果の分析をもとに、カンボジア人学習者が敬語を学習する際、どのような点に注意すべきかを考察した。

その結果から、必要性があるものとして授業で敬語を扱う教師が少なかったことが、カンボジア人日本語学習者の多くが用法を誤解する原因になったと推測できる。したがって、学習上の問題解決のためには、カンボジア人日本語学習者向けのクメール語による用法説明がある敬語の新教材を開発する必要がある。また、今後の課題として学習者に敬語の必要性に関する意識をどのように持たせればよいかを詳しく説明する必要があるだろう。

『参考文献』

国際交流基金（2020）『海外の日本語教育の現状 2020年度日本語教育機関調査より』国際交流基金

5. 遠隔教育システムを活用した中国語指導の新しい取り組み

洪 潔清

明治学院大学 准教授

コロナ禍で遠隔授業が続く中、いかに対面授業と同様の教育効果が得られるかは新たな課題となった。語学授業においては、従来のような筆記試験の実施が困難になるため、学習の定着度を確認するための新たな授業設計が必要となる。そのニーズに応じて、本発表では30分間のオンデマンド型と60分間のzoomによる同時配信型の構成を組み合わせた中国語の遠隔授業の取り組みを発表する。

オンデマンド授業では、学習者に録音した音声ファイルを提出する課題を課し、またリアルタイム授業では、学習者に最大限の発言機会を与えることにより、対面授業と同様の効果を狙う新しい取り組みを試みた。その結果、音声ファイル提出の課題は繰り返し練習が求められるため、発音の基礎を固めることに効果があり、かつ学生の学習モチベーションを高めることにもつながるという効果が見られた。一方、リアルタイム授業では、zoomのブレイクアウトルームを使い、“看图造句”（単語を見て文を作成）または“看图造句”（絵を見て文を作成）のアクティブラーニング活動を行った。この練習により学生の集中力を高めるだけでなく、日本語に頼らず、習った単語や文法事項を活用しながら、中国語の応用力を高め、とりわけ、能動的な思考力を鍛えることに一定の効果があったと思われる。また学生自身からの積極的な発言により、授業の雰囲気を活発化させることにもつながられたと思われる。

遠隔授業を契機として試みたこれらの取り組みは、残された課題の解決を工夫することにより、今後の対面授業への活用も見込まれる。

6. 村上春樹作品における文体的特徴 —日本語表記を中心に—

周 鈺

国際基督教大学 博士課程

村上春樹の作風は、その平易な言葉によって数々の難解な物語を織り成す個性的な文体として注目を集め続けている。村上春樹が文壇デビューを果たした時点では、すでに強烈な個性を内包した文体は確立されており、彼自身も、創作過程において文体を如何に重視しているか、インタビューや対談集などにおいて繰り返し語っている。従って、村上春樹作品を理解するにあたって、文体の特徴を捉えることが極めて重要な視点の一つとなる。

村上春樹作品についての文体論は数多くある。文体とは、複数の定義を持つ表現として、細かい言葉遣いや表記などの概念を内包している。従来の文体研究においては、シンプルな言葉遣いや英語的な日本語表現、リズム感あふれる文章やユニークな比喩の多用、またそれらに伴い浮かび上がる現実と虚構が交錯した物語の構成などに特徴があると指摘されている。一方では、村上春樹は日本生まれ日本育ちの作家ながら、欧米文学から多大な影響を受け、文学作品の翻訳に携わっている。とはいえ、主に日本語で執筆活動に取り組んでいる。表記において柔軟性や豊富性に優れている日本語の特徴を生かし、村上春樹は作品の中にカタカナ語を大量に収め、エキゾチックな雰囲気醸成するとともに、漢字や仮名の使い分けを通じて、日本語表記にこだわる姿勢を見せている。

本研究は村上春樹作品から幾つかの典型例を選び出し、日本語表現、特に表記に重点を置き、日本語ならではの漢字、仮名やローマ字という多様性のある表記体系に基づき、独特な文体に伴う異なる読みの可能性を検討する。本研究によって村上春樹作品における日本語表記の特徴、殊に漢字や仮名の使い分けを明らかにし、村上春樹作品の魅力への再発見に繋がることをめざす。

◆閉会の挨拶： 関東支部 副支部長 高橋 強 (東海大学)

※連絡事項

続きまして、2021年度の関東支部総会の開催を予定しておりますので、会員の皆さまのご参加をお願い申し上げます。

2021年度 日本比較文化学会・関東支部総会 議事録

記録：郭潔蓉（東京未来大学）
(敬称略)

(1) 議長選出

金塚基（東京未来大学）会員により、森下一成（東京未来大学）会員が議長として推挙され、参加者満場一致にて、同氏が議長に選出された。

(2) 総会開会の辞 議長：森下一成（東京未来大学）

森下議長の総会開会の辞により、2021年度関東支部総会が開会した。

(3) 2021年度会計報告 関東支部事務局長 郭 潔蓉（東京未来大学）

郭潔蓉関東支部事務局長より「2021年度決算報告書」が提示された。2022年3月1日に東本裕子（横浜商科大学）会計監査より監査がなされた旨が報告され、参加者一同に承認された。

(4) 2022年度人事案 関東支部長 近藤俊明（東京未来大学）

来年度は人事改選の年に当たるため、近藤俊明関東支部長により「2022年度人事案」が提示され、参加者一同に承認された。

役職名	2022年度人事（案）
支部長	高橋 強（東海大学）
副支部長	東本 裕子（横浜商科大学）
副支部長	郭 潔蓉（東京未来大学）
事務局長・副事務局長	木下 哲生（防衛大学校）
	佐藤 知条（静岡産業大学）
支部指名理事	近藤 俊明（東京未来大学）
支部推薦理事	中村 友紀（関東学院大学）
支部推薦理事	郭 潔蓉（東京未来大学）副支部長兼任
紀要編集委員	金塚 基（東京未来大学）
紀要編集委員補助	熊谷 摩耶（立教大学）
会計監査	森下 一成（東京未来大学）
支部幹事	太田 敬雄（名誉会長）
支部幹事	前田 浩（新島短期大学）
支部幹事	鈴井 宣行（創価大学名誉教授）
支部幹事	森崎 巧一（京都経済短期大学）
ハラスメント委員	水島 孝司（南九州短期大学）
ハラスメント委員	三井 真紀（九州ルーテル学院大学）

(5) 2022年度活動計画（案） 関東支部長 近藤俊明（東京未来大学）

近藤俊明関東支部長より、以下の通り「2022年度活動計画（案）」が提示され、参加者一同に承認された。

2022年5月：全国大会（東北支部主催）

2022年9月：支部例会（東北支部との合同開催）

2022年12月：支部例会（関西支部との合同開催：隔年）

2023年3月：支部例会・2022年度支部総会

(6) 新支部長挨拶 新・関東支部長 高橋強（東海大学）

高橋強新関東支部長より就任の挨拶が述べられた。

以上、予定の議題を全て終了し、閉会した。